

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回 枚方市総合計画審議会
開 催 日 時	平成26年4月25日(金) 18時00分から20時00分まで
開 催 場 所	市役所別館4階 第3委員会室
出 席 者	会長：新川委員 副会長：吉川委員 委員：伊東委員、榮野委員、岡田委員、加藤委員、角野委員、北川委員、後閑委員、小原委員、嶋田委員、高井委員、徳久委員、富岡委員、橋本委員、本田委員、宮原委員、三輪敦子委員、三輪信哉委員
欠 席 者	谷本委員
案 件 名	1. はじめに 2. 第5次総合計画策定に向けた基礎調査結果について 3. 今後の進め方について 4. その他
提出された資料等の名	1. 第1回枚方市総合計画審議会の要点整理 2. 枚方市人口推計調査報告書 3. 行政水準比較調査結果 4. 枚方市市民意識調査結果 5. 枚方市学生アンケート調査報告書 6. 枚方市事業者・NPOアンケート調査報告書 7. 総合計画策定スケジュール(案) 参考資料1. 枚方市議会基本条例 参考資料2. 平成25年度施策評価
決 定 事 項	1. 平成55年までの枚方市の将来人口推計や、全国の中核市を比較対象とした行政水準比較の調査結果について確認した。 2. 各種アンケート(市民、学生、事業者・NPOアンケート)の調査結果について確認した。 3. 今後の計画策定のスケジュールを確認した。
会議の公開、非公開の別及び非公開の理由	公開
会議録の公表、非公表の別及び非公表の理由	公表
傍 聴 者 の 数	0人
所 管 部 署 (事 務 局)	政策企画部 企画課

審 議 内 容	
新川会長	<p>ただ今より、第2回枚方市総合計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>今日のご案内のとおり、人口推計調査や他市との行政水準比較、あるいは各種アンケート調査結果といった枚方市の基礎的なデータをご紹介いただきながら、これから総合計画の策定に向けて議論を進めていきたいと思っております。</p> <p>それでは今日もまた2時間くらい、20時を目処に審議会を進めてまいりたいと思いますので、しっかりとご議論いただければと思います。ただ今日は資料が多いので、できるだけコンパクトにご説明をいただければ幸いです。</p> <p>申し遅れましたが、前回ご欠席されて、今日初めてご出席される委員の方々がおられますので、まずはご紹介をいただければと思います。</p>
事務局	(委員紹介)
新川会長	<p>それでは長丁場になると思いますが、審議会委員の皆様、よろしくお願ひ致します。</p> <p>それから事務局の方々にもサポートをよろしくお願ひしたいと思ひます。</p> <p>それでは事務局より本日の出席の確認をしていただき、その後、お手元にある資料につきまして、事務局の方からご説明をいただければと思ひています。</p> <p>それでは、よろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>本日の出席委員は18名で、枚方市附属機関条例に基づきまして、この審議会が成立していることを報告申し上げます。</p> <p>それでは、ご説明させていただきます。</p> <p>(手元の資料の確認)</p> <p>(資料1「第1回枚方市総合計画審議会の要点整理」の説明)</p> <p>(参考資料1「枚方市議会基本条例」の説明)</p> <p>(資料2「枚方市人口推計調査報告書」の説明)</p> <p>(資料3「行政水準比較調査結果」の説明)</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。</p> <p>ただいまご説明をいただきましたが、特に後半の方では人口の推計・推移につきまして、それから現在の行政水準比較ということで、同じ中核市の比較の資料を出していただきました。60項目ほど数値比較がされてございます。</p> <p>なお、最初にご紹介がありましたように議会基本条例ができたということで、私どもが答申させていただきます基本構想・基本計画が双方ともに議会の議決を要することになりました。条例上、総合計画が議会の議決の対象になりましたので、そのつもりでこれからの審議もよろしくお願ひいたします。</p> <p>ここまでのところで、特に人口推計や行政水準比較、資料をいただきましたけれども、何かご質問、あるいはご意見がございましたら、いただければと思います。どの点でも結構でございます。よろしくお願ひ致します。</p>
吉川副会長	<p>行政水準比較調査ということで、同じ中核市を類似団体として非常に大変な資料をお作りいただいているのですが、この資料では偏差値の順位で各項目における枚方市の位置は見えても、全体としての位置付けがあまり見えてこないように思ひます。項目が58もあり、サンプルは42もある。我々の分野ではこういうときの手法として、多変量解析、特にクラスター分析をかけます。そうすると、枚方市はどの市とよく似通っているのか、あるいはどの市のグループに入るのかということが全体としてよく見えるようになります。</p> <p>ちょっと手間がかかるかも分からないですが、コンサルタントさんの方で頑張っていて、結果を出していただければ、全国の42の中核市において、目標にすべきところや、考えてみなかったところと同じグループといったことなどが見えてくるのではないかとこのように考えております。</p>

事務局	<p>ただ今いただきましたご意見を踏まえまして、クラスター分析についても検討させていただき、新たな分析資料ができましたら、委員の皆様にご提供させていただきたいと考えております。</p>
新川会長	<p>それではこのデータにつきましては、数量的な解析、クラスター分析が一番向いているかどうかの手法も含めて、ご検討いただければと思います。</p>
後閑委員	<p>「人口推計調査結果の概要」について2点教えていただきたいのですが、将来の合計特殊出生率を中位としたその裏付けはどこにあるのかというのがまず1点。 それから先ほどの説明では社会変動要因は今後だんだん少なくなっていくということでしたけれども、将来推計はやはりマイナス傾向の変動要因を踏まえて算出されたのでしょうか。</p>
新川会長	<p>それでは事務局、恐縮ですが、よろしくお願い致します。</p>
事務局	<p>はい、お答えいたします。 まず合計特殊出生率の件ですけれども、高位、中位、低位というふうに3区分に分けて国立社会保障・人口問題研究所の方が推計値を出しております。これまでの出生率の実績値を踏まえますと、中位が最も信頼度の高い値となっておりますので、中位を採用させていただいております。 将来の社会変動要因につきましては、おっしゃられたとおり、社会変動要因の推移が少しずつ縮小傾向になっているので、将来推計は縮小傾向を加味して算出しております。</p>
新川会長	<p>よろしいでしょうか。その他はいかがでしょうか。</p>
加藤委員	<p>人口推計に関連するのですが、前回に説明のあった市の財政状況の説明で、将来の人口構成の推計に基づいて、将来の税収もある程度シュミレーションできないものでしょうか。</p>
新川会長	<p>将来の財政計画をどのように立てるかというのは総合計画全体の中でまた考えていかないといけないところですし、それから財政見通しみたいなものをどのように作るかということ、これも大きな課題だろうと思います。このあたりは事務局で何かお考えがあればお願いしたいのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。 長期財政の見通しを作る際にも検討させていただいたところなのですが、なかなか将来人口構成から税収を見極めていくということは難しく、前回ご説明させていただいた長期財政の見通しの数値におきましては、今回の人口推計の結果をもとに算出させていただいたところでございます。</p>
新川会長	<p>特に生産年齢人口が下がると税収がそれに伴い変化しますので、その辺の加味の具合というのがどのような考え方で計算されたのか、すみませんが、もう一度事務局の方からご説明いただければと思いますがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。 長期財政の見通しの中で、歳入における税収におきましては、経済成長率2%というところがありましたけれども、生産年齢人口や社会動態の変動から、金額を算出するところまでは至っていないのが現状でございます。</p>
加藤委員	<p>枚方市はずっと良好な住宅都市として発展してこられたわけですがけれども、これまであまり雇用や産業の振興に重きを置いてきておりません。ただ、今後はますます高齢化</p>

	<p>が進み、歳出における行政サービスや社会保障の割合が高まってきます。同時に生産年齢人口も減っていくということになればそこだけでも収入が減る。そうすると、かなり積極的に産業振興を図り、雇用を生み出していかないと、歳入、歳出の帳尻が合わなくなってくるのではないのでしょうか。</p> <p>そうした観点から施策を考えるときにはどうしても財政状況が非常に重要なポイントになるのではないかと思った次第です。</p>
新川会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今後、将来人口推計の状況に対し、どのような政策を講じていくべきか、また、市の歳入・歳出に対してどのように手を加えていくかということについては、今後、基本構想や総合計画の中身を考えていくときに、また改めてご検討いただければと思います。そのほか、いかがでしょうか。</p>
富岡委員	<p>基本的なことを少し教えていただきたく思います。</p> <p>私は枚方市の土地勘がないのですが、人口推計のところでエリアごとの推計を出していただいているのですが、たしか南西部地域があまり減少していないというお話があったかと思います。そのエリアはどういう特徴を持ったエリアなのかということをお話していただきたいということが1点。</p> <p>それから2点目なのですが、これも基本的なところなのですが、先ほども少しお話に出ていましたが、今後、社会動態の変動の幅が小さくなっていくことをどのように捉えられているかということをお話していただければと思います。よろしく願い致します。</p>
新川会長	<p>それでは事務局からよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。</p> <p>南西部地域は淀川沿川の地域でございますけれども、ここ数年、特に住宅開発等が進んでいる地域でございます。そういったことから人口の減少が他のエリアよりも少し遅いペースで進行していると認識しております。</p>
新川会長	<p>京阪沿線で便利が良い所で、集合住宅も比較的最近増えている。そういう地域とお考えいただければいいかなと思います。</p>
事務局	<p>続きまして社会動態、すなわち転入数・転出数の件ですけれども、それぞれの数値が低下傾向にございますのは、高齢化の進展により、枚方市だけではなく、全国的な傾向だというふうに聞いております。転入数が落ちていっていることにつきましては、特に枚方市としても、今後できるだけ人口減を防ぎ、選ばれる市となるために今後の施策展開を進めていくべきだというふうに解釈しております。</p>
富岡委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>転入・転出のいわゆる社会動態の低下傾向というのは、全国的な傾向であり、枚方市にもその傾向が表れているということですね。</p>
新川会長	<p>そうですね。特に関西圏の都市部でも類似の傾向があり、主に首都圏とのやり取りでこういう状態が続いているとお考えいただければと思います。よろしいでしょうか。また人口動態やそれから行政水準比較につきましても、お気づきの点がございましたら、その都度、戻っていただくということで、少し先に進ませていただければと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは続きまして、アンケート結果の報告がいくつかございますので、事務局の方からご説明いただいて、委員の皆様からご意見をいただければと思います。それでは恐縮ですが、ご説明のほどよろしくお願ひします。</p>
事務局	<p>(資料4「枚方市市民意識調査結果」の説明)</p>

	<p>(資料5「枚方市学生アンケート調査報告書」の説明) (資料6「枚方市事業者・NPOアンケート調査報告書」の説明)</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。ただいまの市民に向けてのアンケート調査、それから学生に向けてのアンケートの調査結果、それから事業者・NPOの方々へのアンケート調査結果の概略を説明していただきましたが、これにつきましてご質問、あるいはご意見・ご感想などがあれば、ご自由にいただいて参りたいと思います。よろしくお願ひします。</p>
本田委員	<p>2点伺いたいのですけれども、資料4の市民意識調査で、調査の対象数が3,000件で、回答数が1,358件なので半数以上が回答していないということになるのですけれども、おそらく現実的に考えてみたら枚方市についてどうでもいいと思っている人たちが回答しない、あるいは回答していないのだと思います。しかし、仮にそういう未回答の人たちの意見を反映できたとしたら、このアンケート結果の重要度や順位付けなども変わってくるのではないかと思いますので、調査分析の時にそういう層を加味して考える方法があるのかなという単純な疑問が一つ。</p> <p>もう一つ、今、いろんなアンケートを見させていただいて、こんなものも調べられたら役に立つのではないかと思ったものがあります。枚方市から市外に引っ越すとか、市外から枚方市に入ってくる際には、転入・転出届を出さないといけないと思うのですけれども、届を提出しに市役所に来られた人に、なぜ市外に行くのか、あるいはなぜ枚方市に来たのか、その理由を尋ね、生の意見を集めて検証できれば、非常に参考になるのではないかと思いますので、事務局の方にこういう意見を集めることができるのかということをお伺ひしたいです。</p>
新川会長	<p>ありがとうございました。それでは事務局からお分かりになる範囲でお答えいただければと思います。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。まず市民意識調査の対象者の件につきましては、統計的に無作為抽出の調査においては、本市の人口の場合、約1,070件以上の回答が得られればその調査結果の信頼度が97%相当であるとされていることから、この数字で枚方市民全体の意向がおおよそ把握出来ているのではないかと考えております。ただし、先ほどご意見がありましたように、未回答者の意向を抽出するのは事務局としては、なかなか困難だと思っております。</p> <p>続いて、転入・転出届を受理する際にその理由を伺い、意見を集めて検証してはどうかのご提案なのですけれども、言うべきかどうかという個人情報の観点などから、現在のところ、市民課等の窓口ではそのような対応はしておりません。しかし今後、そういった意向を把握する術がないかというようなところも検討していきたいと思っております。</p>
新川会長	<p>よろしいですか。</p>
本田委員	<p>ありがとうございます。</p>
新川会長	<p>郵送にしては回収率がかなり高いということはあるのですが、今もお話がありました、統計的にはほとんど何度繰り返し調査しても同じような結果になるということだと思います。ただ、お答えになっていない人のお気持ちはよく分からないので、ここは何とも言いようがないところだと思います。</p> <p>それから転入・転出ですが、入って来られる方には聞きやすいですけれども、出て行かれる方の追跡はなかなかしにくいかもしれません。しかしながら、事例的に、転入・転出の理由を個人情報の保護に注意しながら確認していくのも、本市の計画を作る上では役に立つかもしれません。事務局で何か考えられることがあればご検討いただければと思います。そのほかいかがでしょうか。</p>

加藤委員	今のところとちょっと関係するのですけれども、答えられた方の中でも関心の度合いというものは違うのではないかと思います。例えば年代別、あるいは職業別であるとか、そんな細かくなくていいので、属性別に3つぐらいで分類していただくと結果がよりはっきりすると思います。おそらく年齢別に求めている施策・評価は変わってくるので、市民全体としてはこういう意向があるのだけれども、例えば高齢者であったらこういう施策、あるいは40代、50代くらいであったらこういう施策が求められているみたいなことがよりはっきりしてくると思うのですけれども、それは可能でしょうか。
新川会長	事務局、お願い致します。
事務局	属性分析につきましては、また資料をまとめましてご提供させていただきます。
加藤委員	資料4の中に属性による傾向区分一覧表がございまして、16番の「人が集い、魅力と活力あふれる中心市街地をつくる」を年代別に見ていくと、70歳代がBとなっているのですが、これはなぜこれしか出てこないのですか。
事務局	傾向区分が変更となるところだけを記載をしておりますので、基本的に重要度・満足度ともに低い傾向にあるD区分にある施策ではあるのですけれども、70歳代のところで区分をすると、B区分になるという形でございます。
加藤委員	なるほど。そうすると、あんまり年代別に違いがないということでしょうか。
新川会長	ABCD区分自体が非常に大きな区切りですので、それが適当かどうかは検討の余地があるのかもしれませんが。例えば、モデル的に考えますと、生産年齢人口の男性でかつ市外で働いている人、主婦の場合はどうか、あるいは高齢者世帯の場合はどうかとか、場合によってはパターンが出てくるかもしれません。ただどんどんややこしくなるので、細かく指摘していくと統計的に意味がなくなってくるので、出来る範囲で少し考えていただければと思います。そのほかいかがでしょうか。
三輪敦子委員	2点ほどお伺いしたいことがあります。全体を通して、どのアンケートでも設定してある具体的な項目を選ばれている方がほとんどで、「その他」を選んだ人は非常に少ない結果になっていますが、事業者アンケートの8ページ、「市外に移転したい理由」のところだけ「その他」の回答が非常に多く、顕著な特徴かと思えます。事業者にとって魅力的な街かというのは非常に市にとって重要なポイントかと思うのですが、この「市外に移転したい理由」の「その他」の内容について、もし情報をお持ちでしたら伺いたいというのが一点。 それからもう一点、「好きなところ・誇れるところ」の上位に「交通の便利さ」があがっていると同時に、「良くないところ・改善すべきところ」の上位に「交通の不便さ」があがっていることに強く印象づけられました。ここで過ごした人間としては、京阪沿線の便利さと学研都市線の不便さのギャップがこの結果に表れているのではないかと推測しているのですが、このデータの理由、背景にある要因について教えていただきたいと思えます。
新川会長	それでは事務局、お分かりになる範囲で結構ですので、よろしくお願い致します。
事務局	お答えさせていただきます。事業者アンケートの「その他」の内訳につきましては、本日はまとめていませんので、後日に整理し配付させていただきたいと思っております。 それから、好きなところ・誇れるところ、良くないところ・改善すべきところ、その両方に交通の関係があがっている件なのですけれども、選択肢がたくさんある中で、「交通の便」に意識が向いている市民の方が多いというところがまず一つあるのかと思われれます。また、地域別にやはり枚方市内も便利の良いところ、悪いところ、西部地域、東部地域もございますので、そうした地域の声も出ているのではないかと考えております。

新川会長	よろしいでしょうか。事業者の方の情報はまた次回あたりによろしくお願いいたします。交通の便の良し悪しについては、地域別の属性で見るとやはり差が出てくると考えてよろしいのでしょうか。
事務局	資料4の22ページをご覧ください。18番の「都市間の交通ネットワークを整備する」の項目をご覧くださいますと、先ほどの16番「人が集い、魅力と活力あふれる中心市街地をつくる」では1区分だけが全体の傾向区分と違うのですけれども、これにつきましては、全体としてはDなのですけれども、地域あるいは年代別にばらつきがあることがお分かりになるかと思います。地域あるいは年齢別に、求める交通移動に違いがあり、結果として両方のご意見が出てきていると考えられるのではないかと考えております。
徳久委員	同じ問題に関する質問なのですけれども、交通に対する評価については通勤・通学者の考え方や、製造業者や自営業者などでは求める交通インフラが違うと思うので、どういった方がどういう種類の交通を求めているのかという点も少し情報をいただければと思います。
新川会長	お願いします。
事務局	ご指摘いただきました属性の観点でまた整理をさせていただきます、情報を提供させていただきます。
新川会長	今日の段階ではまだ情報が整理できていないようですので、次回までにすみませんがよろしくお願い致します。よろしいでしょうか。
三輪信哉委員	<p>何点かございますが、人口推計に戻って質問してもよろしいでしょうか。ご説明いただいた時に聞き逃したのかもしれませんが、枚方市の昼間人口について、またどこかで紹介していただけるのでしょうか。</p> <p>それから2つ目は、意識調査結果に関連するのですが、資料4の3ページ「まちづくり活動への参加状況」の中で、約33%が自治会に参加という回答をしていることから考えて、自治会加入率がかかなり低いまちなのかなと思ったのですが、自治会の加入率を示すデータはございますでしょうか。</p> <p>それから行政の情報をどこから得ているかということ、で、「広報紙から」という回答が非常に高かったと思うのですが、広報紙の配布の方法を教えてください。</p> <p>それから今までの議論の中で、都市交通についていろいろと議論がなされてきましたが、属性による傾向区分の一覧表の中で18番の「都市間の交通ネットワークを整備する」についての中で、平成24年と25年でデータの出方が大きく違っているのはなぜなのかという点が気になりました。以上です。</p>
新川会長	それではいくつかご質問いただきましたので、事務局でご回答できるようであればよろしく申し上げます。
事務局	<p>お答えさせていただきます。まず、昼間人口の件でございますけれども、前回の資料である平成24年度の統計書の48ページに記載させていただいております。情報ソースが国勢調査のため、直近のデータが平成22年度となっておりますが、これによりますと、夜間人口が40万7,978人に対しまして、昼間人口が35万8,077人で、その差につきましては4万9,901人となっております。</p> <p>あと、広報紙の配布方法ですけれども、業者委託をさせていただきます、各戸へ配布をさせていただきます。</p>
新川会長	都市間の交通ネットワークについて、市民意識調査の年度別で大きな差が出ていることはどのように理解したらいいのかという点はいかがでしょうか。

事務局	<p>まず自治会の加入率につきましては、72.2%となっております。次に、交通ネットワークの結果において、24年度と25年度で大きく差が出ているという点ですけれども、こちらにつきましては、第2京阪国道の開通が満足度に影響を及ぼしているのではないかと考えております。</p>
新川会長	<p>三輪委員、よろしいでしょうか。</p>
三輪信哉委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
新川会長	<p>その他、いかがでしょうか。</p>
富岡委員	<p>本日拝見させていただいたデータをじっくり見たら分かるのかもしれませんが、私自身がざっと見て、ご説明いただいただけではどう捉えてよいか分からないところがありましたので、教えていただければと思います。枚方市は都市ブランドとして教育文化都市と掲げておられますが、そのことと関連して、質問が大きく3つございます。</p> <p>まず1つ目は市民意識調査結果の資料4の2ページ目のところ、「好きなところ・誇れるところはどこですか」というところと、「良くないところ・改善すべきところはどこですか」というところなのですが、「子育て・教育環境が良い」という項目は非常に低いかと思えます。また「改善すべきところはどこですか」というところでも低いということは、要は市民の方々の中であまりこのあたりのことはイメージされていないのかどうか、というところが1点。</p> <p>その後、11ページの33番以降あたりのところに子どもに関するところが出てまいります。そういうところで満足度、あるいは重要度というのがAというふうに傾向区分があります。Aという傾向区分は16ページの基本的な考えを参照すればいいのかと思えますけれども、「市民の満足度を維持しながら」という文言が入っているというのは、要は満足度が高いということかなと思うのですけれども、前提としては2ページ目のデータと、この辺のところはどう関係してきているのか、どう見ればいいのかというところが2点目です。</p> <p>それと、3つ目は学生アンケート、あるいは事業者・NPOアンケートの結果をざっとご説明いただいた中で、一つ思った感想なのですけれども、学生さんのところでも「好きなところ・誇れるところ」、「良くないところ・改善すべきところ」に同じような項目がありまして、子育て・教育環境について、非常に低い値になっておりますけれども、これはどのようなイメージを回答者はされたのかと疑問に思いました。学生さんですから子育てのイメージはないだろうとは思いますが、教育環境で言うと、ご自分のおられる環境なのかと想像します。そういった意味では非常に低いということになります。「改善すべきところ」でもあまり意識もないかと読み取れます。そのあたりをどう捉えていくのか。今後、教育文化都市というブランドにどうつなげていくのか。事業所との連携とか、今後これから考えていくことになるとは思いますけれども、そのように思った次第でございます。</p>
新川会長	<p>ありがとうございました。今後の検討の重要なポイントの一つになるかもしれませんが、事務局で今のところの結果についてどのように捉えているか考えがございましたら、お願いしたいと思います。いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>お答えいたします。良いところ・誇れるところという設問と、子育てに関する48施策のうちの施策単位での設問につきましては、若干、設問設計の違いによる差が出ているのかと思っております。市民意識調査では、施策の重要度及び満足度を把握するために行っており、他の施策に比べて、重要度が高く、満足度が高いところですので、効率的に満足度を維持しながら進めていくという考え方を進めております。ただし、好きなところ・誇れるところという視点では、学生アンケートや市民意識調査につきましても、選択肢として多くの方が選んでいただけていないというふうなところが見えてくるのではないかと感じております。</p>

新川会長	<p>よろしいでしょうか。重要だし満足しているけど、誇れるほどではないよね。というようにことになるのかもしれませんが。その他いかがでしょうか。</p>
角野委員	<p>教育文化の話がでたので、当然これらに関する施策も財政基盤の上に立っているのですけれども、先ほどの市民意識調査の子育て・教育の良いところ・悪いところについて、両方とも数値が高くないというのは、関心が高くないというよりかは、逆に安定している、というふうにも取れるかと思えます。しかし、行政水準比較調査結果の中核市の比較で見た時に、この偏差値が子育て・教育、文化・スポーツのところでものすごくダウンしている状況が見られます。今日的な課題としてエアコン設置を一気に始めたから1位になったとか、当然それもあると思うのですけれども、例えば端的に現れているのですけれども、46番の「学校図書館蔵書数」は40位です。一方で、「市民1人当たり図書蔵書数」が5位。この辺のところにいびつさを感じまして、1つ質問をさせていただきます。</p> <p>もしかするとこのデータは集めにくいのかも知れないですけれども、歳出全体における教育費の割合はどれくらいなのかというのが気になります。都道府県あるいは政令市以外の市町村は、教育費の内訳にはほとんど人件費は含まれていないと思います。幼稚園教員だけは人件費がかさみますけれども、小中学校の教員は全部都道府県の持出しだからです。このような仕組みなので、歳出全体における教育費の割合を見ると教育の施策にかけている比率がわりと明確に出やすいかと思えます。こちらの分厚い冊子で枚方市の過去3年間分は見る事ができたのですけれども、他市と比較ができるデータはあるのでしょうか。例えば、淀川の向こう側に中核市がありますけれども、そこと比べてどうなのかとか、あるいは特に図書は、国の交付税の中に読み込まれていますから、こちらの辺りに今後、改善すべき課題があるのかどうか。国の交付税は市の裁量で如何にも使えるわけですが、他市と比較ができれば、市の特徴が浮き彫りになるのではないかと思います。可能な範囲で結構です。</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。少し財政的な面と関連づけて分析を、ということでございました。事務局の方で今何かご用意がありますでしょうか。あるいは今後ご検討いただくということでも結構です。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。今、手持ちの資料の中で他市との比較ができる資料は揃っていませんので、また改めてご報告させていただければと思います。</p>
徳久委員	<p>すみません。</p>
新川会長	<p>はい、どうぞ。</p>
徳久委員	<p>今から申し上げることは意見なので、特に質疑応答の内容ではありません。たくさん情報が出てきたというのはとても素晴らしいことだと思います。また実際問題として、例えば市民アンケートのところを見ますと、資料4の2ページ目で、良くないところ・改善すべきところで、余暇を楽しむ場所が不足しているという設問がありますが、それは中核市比較のデータを見ても、公園や市内商業店数が少ないとか博物館施設が不足しているというような物的条件と満足度の一致は見られると思います。</p> <p>一方、加藤先生がおっしゃられていたように、枚方市は産業支援が弱いという点に関しては、おそらくそれに対応する内容が事業者アンケートのところでも出ていますし、事業者アンケート自体が市に求めている施策に関しても資料6の10ページ目のところでもおそらく対応してくるのだと思います。</p> <p>枚方市の現状とおそらく人びとのニーズが合致しているのはよく分かるのですが、それをひとつひとつ議論していくと終わらないなあという気がしております。実際問題として枚方市にとって何が必要なのかという、ある程度の課題が出てきた上で、個別のデータを見ていった方が比較的効率よく議論できるのではないかと思います。意見した次第です。</p>

新川会長	<p>どうもありがとうございました。今後の進め方、また検討をさせていただきたいと思います。今日は全体の計画を策定するにあたっての基礎的なデータをご紹介します、まず枚方市がどういふ現状なのかということを通の理解としてまずは把握をしていただくことを念頭に置いていますので、この段階はこの段階として、それぞれ少し勉強しておいていただければというふうに思います。その他いかがでしょうか。</p>
後閑委員	<p>防犯に関してなのですが、犯罪発生件数というのは他の中核市と比べると少し多いのかなと思います。そうしますと、学生アンケートでも市民意識調査でも、やはり防犯対策への評価は低いですし、防犯・防災対策が良くないと評価している人も比較的多いということがアンケートから読み取れます。これは枚方でも都市部とそうでないところの地域によって差があるのではないかとこのように思うのですが、防犯に関する地域別データというものは何かあるのでしょうか。</p> <p>私は大学に務めておまして、若い学生、特に女子学生の安全対策というのは日頃とても意識しているものですから、住み良いまちづくりという観点においても非常に大切な要素の1つかと思います。</p>
新川会長	<p>ありがとうございます。もし事務局で地域別の犯罪発生件数などをおさえているのであれば、教えてほしいということですがいかがでしょうか。</p>
事務局	<p>お答えさせていただきます。地域別の犯罪発生率については、事務局では把握できておりませんので、どのような形でご報告させていただくかを含め検討させていただきたいと思っております。なお、今おっしゃっていただいた安心・安全の施策につきましては、例えば、資料4の21ページの属性による傾向区分一覧表の学生区分においても、ニーズの高さが表れているのではないかと考えています。</p>
新川会長	<p>予定の時間をおしてしまいましたが、まだ疑問な点や関連したご意見などがおありかと思ひます。おそらく資料を深く読んでいけば、様々な観点からお話いただけるのだらうと思ひますが、時間の制限もござひます。大変恐縮ですが、本日のデータについてのご質問あるいはご意見につきましては、事務局の方に皆様からお伝えいただいて、委員の皆様方で共有をさせていただくということにしたいと思ひますが、そういう扱ひで今日のところはお許しをいただくということでもよろしいでしょうか。おそらく先ほどの徳久委員のご趣旨にも沿うのではないかと思ひます。</p> <p>それでは、今日のところは会長の一存でそのような扱ひにさせていただきます。本日は大変熱心にご議論いただきましてありがとうございます。今後の計画策定にも大いに役に立つお話を随分といただきましたので、今後の参考にさせていただければと思ひます。</p> <p>それでは、次第の3つ目「今後の進め方」について、事務局の方よりご説明をいただければと思ひます。よろしくお願ひ致します。</p>
事務局	<p>(参考資料2「平成25年度施策評価」の説明) (資料7「総合計画策定スケジュール(案)」の説明)</p>
新川会長	<p>どうもありがとうございました。ただ今のご説明にもありましたように、第3回の審議会では、お手元の施策評価により総合計画の進捗管理を毎年やってこられているわけですが、それのとりまとめたものを出していただいて、次の審議の基礎資料にしようということでご提示をいただくということになります。合わせて、まちづくりワークショップを昨年12月より開いてきていただきました。そこでいろいろご議論いただいた市民の皆様からの様々なこれからのまちづくりのアイデアを取りまとめてご報告をいただけるというようなことのように思ひます。以後、このデータをもとにして、今後の計画づくりをやっていく。ただ、私どもがこの場で具体的にこういう文言を入れましようといったような、そこまでちゃんと議論する場は持てませんので、それについてはスケジュール案の真ん中のところにあります庁内委員会で検討をさせていただくということに</p>

	<p>なります。そちらとのやり取りの中で、ここでも議論をしていく。そのようなイメージで今の所は考えております。今後の進め方につきまして、ご意見、ご質問がございましたらいただいております。いかがでしょうか。</p> <p>とりあえずはこのような進め方でまずはいろいろな情報をとにかく見ていただき、ご意見をいただきながら、計画の大枠、枠組みというところから私どもも考えていく。そうして少しずつ中身を埋めていく。そんな作業を次回以降、始めていきたいと思っております。第3回では、少しこんな枠で考えてはどうだろうかというところまでご議論いただければというふうに思っています。それにしましても、まずは現状をきちんとおさえておくということで、今日、それから次回、これまでの検討のとりまとめのご報告もいただきながら、議論を進めていくということでご了解をいただければと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>これでご了解をいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願ひ致します。また進めながら、不足なところとか、こんな議論をしないといけないんじゃないとか、順次いただければというふうに思っております。時間が限られていますが、拙速に結論を求めても、あまり良いことはないので、そこはじっくりご議論させていただければというふうに思っておりますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>それでは今日、予定をしておりました議事につきましては以上にしたいと思っておりますが、「その他」が一つ残っております。事務局から何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>本日の資料につきまして、ご不明な点等ございましたら、恐れ入りますが、事務局の方へ5月8日木曜日までにメール、電話等で連絡いただけたらと思っております。</p> <p>また本日は多くの資料を配付させていただきました。そのため、次回に備えて机の上にそのまましておいていただけましたら、事務局の方でお預かりし、本日と同様に机の上のバインダーに綴じて保管させていただきます。</p> <p>次に、本日の会議録につきましては、前回と同様に事務局の方で案を作成させていただきました。委員の皆様のご確認をいただきまして、その結果を会長と調整した上で、公表してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。なお、次回の審議会の日時でございますが、先ほど申しましたように6月27日金曜日午後6時から、本日と同じこの会場で開催を予定しておりますので、ご出席の方、よろしくお願ひいたします。以上でございます。</p>
新川会長	<p>ありがとうございます。本日の審議内容等につきましては、またいろいろと疑問な点など事務局の方にまずはいただいて、その回答も合わせて各委員で共有をしていただければ、今後の審議の助けになると思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思っております。</p> <p>なお、次回の予定等もご紹介がございました。何か進め方という点で特にご意見などございましたら、いただいております。よろしいでしょうか。</p>
三輪信哉委員	<p>配付の資料でございますが、会議までに資料をいただいておりますと、少し見て来れるかなと思っております。重い資料をまた持ってくるということになりますが、その点、いかがでしょうか。</p>
新川会長	<p>事務局では、今後、各委員にあらかじめ出来るだけ見ておいていただきたい資料がどんどん増えてくると思うんですけど、このへんはどのようにお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>私どもの方で資料をまとめまして、可能な限り、事前にお送りするような形で取り組ませていただいておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
新川会長	<p>結構大変になるかと思っておりますけれども、よろしくお願ひいたします。その他よろしいでしょうか。できるだけ次回以降は事前に、原資料をそのままというのは重くて大変だと思っておりますので、とりまとめたもの、あるいは概要版のようなものをあらかじめ委員のお手元にお配りをさせていただいて、この場で確認をしながら議論をしていただければ効率</p>

<p>的かと思しますので、各委員にはあらかじめの確認をよろしくお願ひしたいと思いま す。</p> <p>それでは本日、予定をしておりました時間になりました。大変熱心にご議論いただき ましてありがとうございました。お疲れさまでございました。以上で閉会とさせていた だきたいと思ひます。</p>

第2回枚方市総合計画審議会の要点整理

No.	委員による質問・意見	整理・集約の方向
1	<p>(吉川副会長) 行政水準比較調査について、調査項目が58もあり、サンプルは42もある。分析方法として、多変量解析、特にクラスター分析などを行うと、枚方市がどの市とよく似通っているのか、あるいはどの市のグループに入るのかということが見え、全国の中核市の中で目標にすべきところや、考えてみなかったところと同じグループといったことなどが見えてくるのではないかと。</p>	<p>(新川会長) 意見を踏まえ、数量的な解析、クラスター分析が一番向いているかどうかの手法も含めて検討すべきである。 (事務局) クラスター分析を含め、効果的な分析方法を検討し、お示しする。</p>
2	<p>(後閑委員) 人口推計調査について、将来の合計特殊出生率を中位とした理由はなにか。 また、社会変動はマイナス傾向にあるとのことだが、それを踏まえて推計しているのか。</p>	<p>(事務局) 合計特殊出生率については、国立社会保障・人口問題研究所において、高位・中位・低位の3区分に分けて推計値を出しているが、これまでの国や枚方市の実績値を踏まえると、中位が最も信頼度の高い値となっているため中位を採用している。 また、将来の社会移動については、縮小傾向を加味しながら推計している。</p>
3	<p>(加藤委員) 市の財政状況について、人口推計による将来の人口構成に基づいて、今後の税収もある程度シュミレーションできないのか。</p>	<p>(事務局) 前回にご説明した長期財政の見通しの中で、歳入における市税については、経済成長率を2%程度と見込んで算出している。 【補足説明】 長期財政の見通しの市税の推移については、今回の人口推計を基にした生産年齢人口の減少や年金受給者の増加などの人口構成の変動のほか、経済成長率2%の要因などを総合的に加味して算出している。</p>
4	<p>(加藤委員) 枚方市は良好な住宅都市として発展してきたが、これまであまり雇用や産業の振興に重きを置いてきていないと思う。今後は高齢化により、歳出における社会保障の割合などが高まり、生産年齢人口が減っていく中で、積極的に産業振興を図り、雇用を生み出していけないと、歳入・歳出の帳尻が合わなくなってくるのではないかと。そうした観点から施策を考える際には、財政状況が重要なポイントになると思う。</p>	<p>(新川会長) 将来人口の状況に対して、どのような対策を講じていくべきか、また、市の歳入・歳出に対してどのように手を加えていくべきかということについては、今後、総合計画の中身を考えていくときに、改めて検討していく。</p>
5	<p>(富岡委員) 人口推計のエリアごとの推計について、南西部地域があまり減少していないとのことだが、そのエリアはどういう特徴を持った地域なのか。 また、今後、社会動態の変動の幅が小さくなっていくということをどのように捉えているのか。</p>	<p>(事務局) 南西部地域は淀川沿川部のエリアで、近年、特に住宅開発等が進んでいる地域であり、人口の減少が他の地域よりも遅いペースで進行している。 また、社会動態（転入・転出）の数値が低下傾向にあるのは、高齢化の進展などから全国的な傾向でもある。転入数に対しては、今後できるだけ人口減を防ぐような施策展開を進めていくべきだと考えている。 【補足説明】 南西部地域は、淀川沿川及び京阪沿線にあり、地域北部には枚方市駅がある。また、西側には淀川河川公園が整備されており、高齢化率については全地域の中で最も低い。(H25年19.3%：市全体23.0%)</p>

No.	委員による質問・意見	整理・集約の方向
6	<p>(本田委員) 市民意識調査では、調査対象数の半数以上が回答していないことになるが、仮に、未回答の人たちの意見を反映できたとしたら、結果も変わってくると思うので、そういう層を加味して考える方法はあるのか。</p> <p>また、市外への転出や市内への転入について、市への届の提出時に、転出・転入の理由を確認し検証できれば参考になると思うが、こういう意見を集めることができるのか。</p>	<p>(事務局) 市民意識調査について、統計的に無作為抽出の調査では、本市の人口の場合、約1,070件以上の回答が得られれば、その調査結果の信頼度が97%相当であるとされており、今回の回答数(1,358件)においては、市民全体の意向がおおよそ把握出来ていると考えている。ただし、未回答者の意向を抽出するのは、なかなか困難だと考えている。</p> <p>なお、転出・転入届を受ける際にその理由を伺うアンケートについては、ご意見を踏まえ、平成26年7月から実施し、結果をまとめしだいご報告する。</p>
7	<p>(加藤委員) 市民意識調査で、回答者の中でも関心の度合いは違うと思う。例えば、年代別、職業別であるとか、細かくなって良いので、属性別に3つぐらいで分類すると結果がよりはっきりすると思うが、それは可能か。</p>	<p>(新川会長) ABCDの傾向区分が大きな区切りのため、これが適当かどうか検討の余地があるかもしれない。例えば、モデル的に、生産年齢人口の男性でかつ市外で働いている人や、主婦の場合、高齢者世帯の場合などの様々なパターンがある。ただし、どんどん複雑になるし、細かく指摘していくと統計的に意味がなくなってくることもあるので、できる範囲で事務局で検討してほしい。</p> <p>(事務局) 属性分析について、資料をまとめ、ご提供する。</p>
8	<p>(三輪敦子委員) 事業者アンケートの「市外に移転したい理由」の設問で、「その他」の回答が非常に多いが、その回答内容について教えてほしい。</p> <p>また、市民意識調査で、「好きなところ・誇れるところ」の上位に「交通の便利さ」があがっていると同時に、「よくないところ・改善すべきところ」の上位に「交通の不便さ」があがっており、京阪沿線の便利さと学研都市線の不便さのギャップが結果に表れていると推測できるが、このデータの理由、背景にある要因について教えてほしい。</p>	<p>(事務局) 事業者アンケートの「その他」の内容を整理し、ご提供する。</p> <p>市民意識調査での属性による傾向区分一覧表で、18番の「都市間の交通ネットワークを整備する」では、本来、傾向区分はDだが、地域あるいは年代別にばらつきがあり、求める交通移動に違いがあると考えられる。ご指摘の点を踏まえ、属性分析の資料を整理し、お示しする。</p>
9	<p>(徳久委員) 交通に対する評価については、通勤・通学者の考え方や、製造業者や自営業者などでは求める交通インフラが違うと思うので、こういった方がどういう種類の交通を求めているのかという点について情報がほしい。</p>	<p>(事務局) 属性分析の資料を整理する中で、ご指摘の点を踏まえ、情報を整理する。</p>
10	<p>(三輪信哉委員) 1つ目に、枚方市の昼間人口について教えてほしい。</p> <p>2つ目に、市民意識調査の「まちづくり活動への参加状況」の中で、約33%が自治会などの地域活動に参加しているとの回答だが、自治会の加入率はどのくらいか。</p> <p>3つ目に、行政情報を得る方法として、「広報紙から」という回答率が高いが、広報紙の配布方法を教えてほしい。</p> <p>4つ目に、属性による傾向区分一覧表の18番の「都市間の交通ネットワークを整備する」で、平成24年と平成25年でデータの出方が大きく違っているのはなぜか。</p>	<p>(事務局) 枚方市の昼間人口については、平成22年度の国勢調査において、夜間人口が40万7,978人に対し、昼間人口が35万8,077人で、夜間人口に比し約87.8%となっている。</p> <p>自治会加入率については、72.2%（平成25年3月31日時点）となっている。</p> <p>広報紙の配布方法については、業者委託により、市内各戸へ配布している。</p> <p>都市間の交通ネットワークに対する評価については、第二京阪国道の開通が少なからず影響を及ぼしていると考えている。</p>

No.	委員による質問・意見	整理・集約の方向
11	<p>(富岡委員) 枚方市は都市ブランドとして教育文化都市を掲げているが、市民意識調査及び学生アンケートにおいて、「好きなところ・誇れるところ」と「良くないところ・改善すべきところ」の両方で、「子育て・教育環境」の回答率が非常に低い状況であり、そのことについてどう捉えているのか。 一方、各施策に対する重要度・満足度では、子育て・教育に関する施策については、傾向区分がAで満足度が高い傾向にある。これについてはどう見ればいいのか。</p>	<p>(事務局) 「好きなところ・誇れるところ」の設問と、子育てに関する施策の重要度・満足度の設問では、設問の設計に違いがあると考えている。子育ての施策の満足度については、全施策の中で高い傾向にあり、今後も満足度を維持しながら効率的に進めていくことが基本的な方向となる。ただし、枚方市の好きなところ・誇れるところという視点では、選択肢として十分に選んでいただけていないという実態がある。 【補足説明】 設問設計の違いとして、重要度・満足度の設問では、全48施策に対し個別に回答を求めている一方で、「好きなところ・誇れるところ」の設問では、全16の回答項目のうち3つまでを選択する形式としている。</p>
12	<p>(角野委員) 市民意識調査の「子育て・教育環境」で、好きなところと良くないところの両方で数値が高くない結果については、安定しているとも読み取れるかと思う。しかし、行政水準比較調査の子育て・教育分野、文化・スポーツ分野で、偏差値が非常に低い項目が見られる。例えば、「児童生徒1人当たり学校図書館蔵書数」は40位である一方で、「市民1人当たり図書蔵書数」が5位となっており、問題を感じる。 また、歳出全体における教育費の割合を見ると、教育施策にかけている比率が明確に出やすいと思うが、他市と比較できるデータはあるのか。</p>	<p>(事務局) 歳出における教育費の割合については、他市と比較できるデータを収集し、お示しする。</p>
13	<p>(徳久委員) 市民意識調査の「良くないところ・改善すべきところ」で、「余暇を楽しむ場所が不足している」の回答比率が高いことは、中核市比較のデータを見ても、公園面積や商業商店数、博物館等施設が少ないというような物的条件との一致が見られ、また、枚方市が産業支援が弱いという点についても、それに対応する内容が事業者アンケートで出ていると思う。 ただし、それをひとつひとつ議論するのではなく、枚方市にとって何が必要なのかという課題が出てきた上で、個別のデータを見ていった方が比較的効率よく議論できると考える。</p>	<p>(新川会長) 意見を踏まえ、今後の進め方について検討していきたい。なお、現段階では、基礎的なデータにより枚方市の現状について共通理解を深めていただきたいと考えている。</p>
14	<p>(後閑委員) 防犯に関してだが、犯罪発生件数は他の中核市と比べると少し多いと思う。市民意識調査や学生アンケートでも、防犯・防災対策への評価は低いことが読み取れる。これは枚方市内においても都市部と、そうでない地域で差があるのではないかと思うが、防犯に関する地域別データはあるのか。 防犯対策については、住み良いまちづくりという観点において、非常に大切な要素の1つかと思う。</p>	<p>(事務局) 地域別の犯罪発生件数について調査し、データが収集できれば、お示しする。</p>